

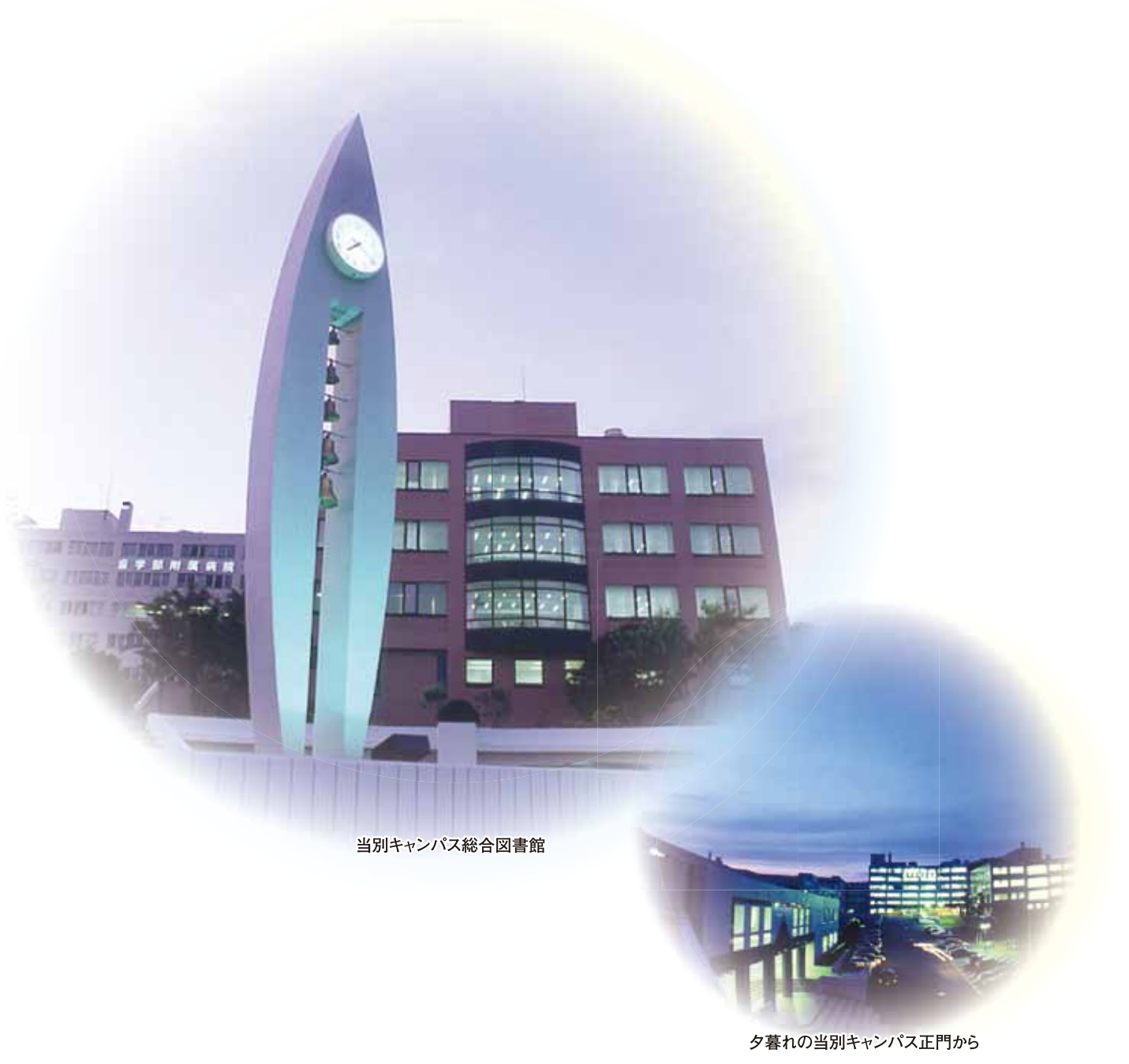
北医療薬会報

発行所 北海道石狩郡当別町金沢1757番地
北海道医療大学薬学部同窓会

☎ (0133) 23-0301 直通・FAX
☎ (0133) 23-1211 大学代表
発行人 田中稔泰

印刷所 (株)コルパス

札幌市白石区菊水2条1-4-27
☎ (011) 837-7057



当別キャンパス総合図書館

夕暮れの当別キャンパス正門から

目 次

会長挨拶 田中 稔泰	3
薬学部組織紹介	3
御退任された教授のご紹介	4
新任教授からの御挨拶 薬剤学講座(臨床薬剤学) 小林 道也 先生	4
オープンキャンパスおよび入試について	5
卒業生からの近況報告 1期 岡部 和子 さん	6
同窓会新会員からのメッセージ 東洋 輝武 さん	8
同窓会報告	
役員改選のお知らせ	9
関西支部 設立報告 新井 淑子	9
新理事就任のご挨拶 大島 伸宏	10
平成23年度事業報告および24年度事業計画	11
お知らせ(北医療薬 総会および懇親会のご案内)	12
編集後記	12

ご挨拶

北海道医療大学薬学部同窓会 会長
田中稔泰



薬学部では2006年から6年制課程の設置がスタートし、今春薬学部6年制の最初の卒業生が社会に出てまいりました。彼らは初めての長期実務実習で各病院や薬局等で諸先輩方の指導を受けてきた新薬剤師ですが、同窓生に於かれましても多くの方が、この指導に関わってこられたものと思います。今後、医療大の卒業生が全国各地で活躍することになりますが、この薬剤師の将来を担う彼らに期待するとともに、各地域に於かれましても、今までと同様に後輩のご指導をよろしくお願い申し上げます。また、この6年制教育を背景として、薬剤師は専門性を発揮しながら医薬品の有効性と安全性の確保に貢献するとともに、生涯にわたった高度な知識や技術を維持していくことが求められるようになってまいりました。このことから「日本薬剤師会認定制度認証機構」が発足し、専門薬剤師の認定が行われているところですが、本学においても、昨年、同機構より「生涯研修認定制度認証機関」として認定を受けました。自己研鑽による職能の向上を目指す薬剤師を対象に薬剤師研

修講座を開講することになっておりますし、同窓会との共同開催等も検討されておりますので、今後、各支部で開催される医療薬学セミナーにおいても認定シール等を活用して頂ければと思っております。

さて、高校生の将来の職業ランキングでは、薬剤師は依然として高い位置にあります。しかし、少子化による受験生の減少や薬学部の増加に伴い、私立薬科大学では定員割れの問題が起きており、入学定員削減を余儀なくされている大学も少なくはありません。医療大学においても、一時期に比べ入学希望者は減少してはいますが、まだそのような状況下にはなく、この状態を維持する上でも同窓生の役割は大きく、皆様方のお力が必要と考えております。AO入試を利用した子女枠制度や医療人枠等もありますので該当される方やお知り合いの方がいらっしゃれば、事務局にお知らせ頂ければと思います。また、この他、会の運営に関してご意見、ご要望等がありましたら併せてご連絡頂ければと思いますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

北海道医療大学薬学部組織紹介

薬学部の大講座制および平成18年度からの薬学部6年制への移行に伴い薬学部の組織ならびにスタッフも様変わりしました。現行の薬学部の組織、スタッフを紹介させていただきます。

創薬化学講座

薬化学 教授/小田 和明 講師/西園 直純 助教/山口 由基
医薬化学 教授/石倉 稔 講師/山田 康司 助教/阿部 匠
生薬学 准教授/高上馬 希重 助教/野口 由香里、金 尚永

生命物理科学講座

薬品物理化学 教授/豊田 栄子 准教授/波野 典之 助教/岡田 知晃
放射薬品化学 教授/大倉 一枝 准教授/秋澤 宏行 助教/大島 伸宏
薬品分析化学 准教授/村井 毅 助教/斉藤 俊英

分子生命科学講座

生化学 教授/青木 隆 講師/浜上 尚也 助教/土田 史郎
免疫微生物学 教授/岡崎 克則 講師/大澤 宜明 助教/井上 恵美

衛生薬学講座

衛生化学 教授/和田 啓爾 講師/小林 大祐 助教/石川 美香
環境衛生学 教授/増田 園子 准教授/遠藤 哲也 講師/寺崎 将
薬事法制度 准教授/森本 敦司

薬理学講座

薬理学 教授/平藤 雅彦 准教授/飯塚 健治 講師/町田 拓自
臨床薬理毒理学 教授/島村 佳一 准教授/大橋 敦子 助教/鹿内 浩樹
病態生理学 教授/富樫 廣子 准教授/松本 真知子 講師/柳川 芳毅

薬剤学講座

薬剤学 教授/齊藤 浩司 講師/小田 雅子 助教/市村 祐一
臨床薬剤学 教授/小林 道也 講師/伊藤 邦彦 助教/下山 哲哉
製剤学 准教授/八木 直美 助教/久保 儀忠

実務薬学教育研究講座

教授/唯野 真司 准教授/千葉 薫
講師/吉田 栄一、櫻田 渉、中山 章
助教/野田 久美子

病院薬学講座

教授/遠藤 泰 講師/千葉 智子、木村 治、岩尾 一生
助教/藤崎 博子、及川 孝司

薬用植物園・北方系生態観察園

薬用植物園・北方系生態観察園担当
准教授/堀田 清

薬学教育支援室

教授/吉村 昭毅、講師/木村 真一、田原 佳代子

大学教育開発センター

化学 教授/武智 春子、鈴木 一郎
物理学 教授/渡辺 秀樹
情報科学 准教授/石田 朗、二瓶 裕之
法学 講師/森元 拓
英語 准教授/足利 俊彦
生物学 講師/近藤 朋子、新潟 丈治

平成17年以降に御退任(定年退職)された教授をご紹介します。

平成17年3月 谷澤 和隆 先生
横澤 菱三 先生
久々湊 晴夫 先生

平成23年3月 関崎 春雄 先生
宮崎 正三 先生
樋口 孝城 先生

平成19年3月 渡部 博之 先生
大野 孝正 先生

平成24年3月 関川 彬 先生
高橋 大 先生

長年に渡りまして、本学の教育・研究にご尽力頂きましたことを深く感謝致します。
(平成17年以前に御退任(定年退職)された教授につきましては同窓会HPの会報のバックナンバーをご覧ください)

■■■■■■■■■■ 新任教授からのご挨拶 ■■■■■■■■■■

「教授就任にあたって」

平成23年7月1日付にて薬学部教授を拝命し、はや半年が過ぎました。

6年制教育の完成年度ということで、講座に配属された4～6年生のCBT・OSCE、長期実務実習そして卒業に向けた対応に、伊藤邦彦講師、下山哲哉助教とともに奮闘しております。

私は平成3年に北海道大学医学部附属病院薬剤部に薬剤師として勤務し、宮崎勝巳先生のご指導のもと、薬剤師業務はもちろんのこと、薬物の消化管吸収と腎排泄に関連する研究を進めてまいりました。平成13年に、北大病院薬剤部時代の師匠であった本学薬剤学講座 齊藤浩司教授のもとで助教授として奉職し、生物薬剤学研究を行うとともに、多くの薬剤師の先生方との共同研究に参加させていただきました。また平成18年には薬学6年制教育開始にあわせて赴任された実務薬学教育研究講座 唯野貢司教授とともに、実務家教員として勤務してまいりました。

薬学6年制教育においては、何もかも手探り状態からのスタートとなりましたが、早期体験学習におけるワークショップ、実務実習前特別実習のカリキュラム作成、OSCE対策など、さまざまな授業カリキュラムに関わることができました。また、6年制教育において重要視されているProblem based learning (PBL) やSmall group discussion (SGD) については、齊藤教授の勧めにより名城大学研修プログラムに参加して理論を学び、薬学教育協議

薬剤学講座(臨床薬剤学)

小林 道也 先生



会北海道地区調整機構の先生方と指導薬剤師養成ワークショップを通じて実践させていただきました。多くの先生方に支えられてこの10年間、充実した研究・教育を行えたことに大変感謝しております。

さて、いよいよ平成24年3月には、薬学6年制教育の第1期生が社会に旅立ちます。現在の医療チームの中で薬剤師職能を活かすためには、コミュニケーション能力を高めるだけではなく、薬剤師としての専門性を磨くことが不可欠です。北大病院時代に生物薬剤学を研究してきたことは、患者さんの体に入った薬はどのような動態を経て薬効／毒性を示すのかを予測するのに大きな力となりました。このたび臨床薬剤学の教授を拝命したことを期に、大学における基礎研究を進めるとともに、医療現場の薬剤師の先生方の抱えている問題点を、薬剤学や薬剤疫学を用いることで解決できるような共同研究を数多く進めたいと考えております。また、それらの成果を論文化することにも微力ながらご協力させていただきたいと思っております。

これからも同窓会会員の皆様や本学の諸先生方のご指導をいただきながら、常に患者さんの利益を念頭に置き、薬物療法における問題点を提起・解決できる薬剤師を一人でも多く輩出できるようこれからも努力してまいります。最後になりましたが、会員の皆様のご発展とご健勝をお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

オープンキャンパスおよび入学試験について

北海道医療大学が設立され30年以上が経過し、薬学部では今年度第36期生が卒業します。ここ数年来、本学卒業生のご子弟が本学に入学することが多くなってきました。同窓会としてはうれしい限りです。そこで、現在、受験生およびそのご父兄を対象に北海道医療大学で開催されている大学案内オープンキャンパスおよび入学試験制度について紹介させていただきます。

オープンキャンパス:2011年度は4回開催されました。

開催日

2011/6/19(日)、2011/8/ 5(金)
2011/8/ 6(土)、2011/9/25(日)

いずれもAM11:00-PM4:00

主な内容 (2011年度)

- 大学概要説明 2011年度入試結果及び2012年度入試概要についての説明。
- 学内施設見学 興味のある学部・学科に分かれて施設見学。
- 体験実習または模擬講義 興味のある学部・学科に分かれて開催
薬学部模擬講義、体験実習のタイトル
模擬講義 「薬学部の紹介」 講師:黒澤 教授
体験実習 「薬用植物に親しむ」
「調剤ってどんなこと? ~粉薬・注射薬・変わった薬の使い方~」
「薬になる植物にふれてみよう」
「ベルツ水を作ろう」
「飲んだくすりはちゃんと効いているのかな?」
- 保護者ガイダンス
- 個別進学相談

2012年度 オープンキャンパス日程

第1回: 6/17(日)

第2回: 8/ 3(金)

第3回: 8/ 4(土)

第4回: 9/23(日)

時間はいずれも11:00~16:00を予定しています。

詳細に関するお問い合わせは入試広報課まで!

E-mail: nyushi@hoku-iryo-u.ac.jp

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~koho/open/index.html>

入学試験について

本学の入学試験制度も社会のニーズにあわせ、多様になっています。従来からの推薦入試、一般入試、センター入試に加え、AO入試、指定校枠、同窓生子女枠、医療人枠、3年次編入学試験などがあります。

詳細に関するお問い合わせは入試広報課または同窓会会長田中まで

卒業生からの近況報告

1期卒業 岡部和子さん

今年の入学生は38期生の入学となります。1期生なんて後輩の方々にはシーラカンスの様な存在ではないでしょうか？

1974年の4月下旬、冷え込む音別の地が明るい太陽に照らされ陽炎立つ大学への道を歩き無事入学式を終え、両親が帰宅すると急に寂寥感に襲われ泣いてしまいました。でも1週間も経つと友人もでき環境にも慣れ大学生活を楽しめるようになりました。学生寮の近くに太平洋が広がりデートや花火で遊びました。近くのパシクル沼にグループでハイキングに行ったり…。そうそう！女子寮には不思議な事がありました。寮長で居られた京子先生はいつお風呂に入るのか？誰もお風呂で一緒になったことがありません。先輩の居ない1期生みの学生寮と大学…そして売店を兼ねたレストラン・ド・ノールしかありませんでした。体育館も建っておらず体育は音別町の体育館を利用。冷え込む環境を利用した手作りのスケートリンクで初スケート…そんな環境で1年半を過ごせたことをとても懐かしく幸せに思います。

卒後は大学研究室で3年働いた後、薬局や調剤薬局、病院薬局、漢方医に勤務後、高齢の両親が住む稚内へ戻りました。稚内へ戻る前、或る時何故か両親と旅行に出たくなり、二人の姉との5人で東北へ旅行しました。その時に父がとても老いた事を実感し、それが親元に戻るきっかけとなりました。それまで自己のことばかり考えて居た私がふと周りを見回すと、ヨレヨレになってしまった両親。病院に行くにも他人の手を借りなければなりません。便利で快適な都会から最北端の稚内へ移る決心をするまで1年掛かりました。2000年8月20日居



写真中央が筆者

心地の良かった職場を後にし、その後結局、稼業の宿泊業を継ぎました。退職前の職場は辞める2年前まで薬剤師が私一人でした。責任感から病気で休むことができませんでした。年老いた両親との暮らしは通院や入退院の繰り返しです。地方都市では薬剤師が不足しています。あちこちの薬局からお誘いも受けましたが薬剤師の仕事の続けると職場に迷惑が掛かります。稼業であれば時間の融通は利きます。両親と暮らして1年後父が亡くなりました。稚内に戻らないで居たならば一生後悔をしたと思います。父の死後代表取締役となり2002年古い宿を取り壊し北海道遺産・北防波堤ドームが見える同じ土地に8階建の宿に建て替えました。体が不自由な方々も楽に旅行ができるよう全てバリアフリーの建物です。宿泊業は24時間体制の大変な仕事です。一つのトラブルが生じただけで全てが否定されかねません。同じ接遇をしてもゲストは千差万別です。インターネットの口コミ評価で宿の人気度も上下します。ここ10年ほど利尻礼文サロベツへの観光客数が減少しています。最盛期の25%も落ち込みました。その上不況と昨年の東北

大震災です。ビジネス客の出張も減りました。両親の築いた土台に梯子をかけて立って居る様な宿の新米経社長稼業はてんてこ舞いの10年間でした。



サロベツ原野に咲くウメバチソウ

利尻礼文サロベツの自然環境はとても素晴らしいです。稚内で育っていない私は観光客のためにとっても勉強しました。サロベツ湿原の植物、生まれ育った利尻の植物、そして小さい時ただ一度しか訪れていない礼文島。礼文島はハイキング気分で歩く道に本州の2000m級の高地に咲く高山植物が咲きます。初めて桃岩散策路を歩いた5月、可憐なピンク色のレブンコザクラや白いエゾノハクサンイチゲが咲き乱れている様にいっぺんに魅了されました。礼文島のお花畑は年に14回変わるといわれます。霧で水滴の衣装を纏ったイブキトラノオの群生。花径1cmと小さなウメバチソウのガラスの王冠にも見える緻密な仮おしべ。いつ行っても新たな可憐は花々との出会いと感動があります。

数年前同期生と会った時に旭山動物園の話題となりそれから5~6人の小旅行の楽しみも覚えました。すぐに18歳に戻る同期生との話題は尽きません。

母は今年92歳になり元気に暮らしておりますがやはりそれなりに手がかかります。去年は友人との旅行も行けずじまいでしたがまた再開したいと思います。

現在は宿の仕事の他、パートタイムで薬局勤務や学校薬剤師の仕事が続けています。本業は悩ましい我が稼業の合間にリフレッシュできる貴重な時間でもあります。

人生は長く、まっすぐな道と思っていましたが思いもよらず稼業を継いでしまいました。その時々で突然気が付く事があります。ぜひ、親御さんが高齢で身動きできなくなる前に一緒に旅行をしてください。そして、ぜひ日本最北端の利尻礼文サロベツ国立公園にお越しくださいませ。お知らせくだされば精いっぱいのおもてなしをさせていただきます。日頃の事は「日本のてっぺんより汐彩だより <http://shiosaitai.exblog.jp/>」をご覧ください。

ホテルおかべ汐彩亭 代表取締役 岡部 和子
(原稿受領;2012年3月)



ホテルおかべ汐彩亭

大学在籍中の同窓会員からのメッセージ

本学大学院薬学研究科修士課程
東 洋 輝 武 さん



私は薬学部33期卒業の東洋輝武です。このたび同窓会の新規会員ということでご挨拶させていただきたいと思います。

私は現在、北海道医療大学大学院薬学研究科修士課程、薬品分析化学教室において、黒澤教授のもと日々研究をしています。大学に入学してから、早いものであと学生生活も数ヶ月間を残すのみとなり、時間が経つ早さをしみじみと感じております。

冬期の当別は雪がとても多く、車で1時間以上かけて通学しております。

何度も経験している冬道ですが視界が全く見えなくなることも多々あり、学校に着く頃にはどっと疲れがでる事もあります。

大学院の研究内容は胆汁酸と各種トランスポーターについてです。初めは胆汁酸のことは国家試

験程度のことしか理解していなかったのですが、今はこんなにも奥が深く、学ぶことの多い分野なのだなと感じております。就職は今現在もまだ決まっておらず、色々悩んでいるところです。薬剤師として、病院、調剤薬局、製薬会社などありますが、大きな病院で医師や看護師などのチーム医療を肌で感じ、病棟での服薬指導などはより患者さんを身近に感じられる仕事の一つで、とても興味があります。また、実家が漢方薬局を経営しているため、幼いころから漢方薬は身近な存在でありました。いま少しずつ勉強しておりますが、父のようになるには、まだまだ時間がかかりそうです。

同窓会については、自分達が四年制最後の学生だったので、今後卒業してくる六年制の学生との繋ぎ役になればいいと考えております。また若い力を活かし、少しでも先輩の先生方に貢献し同窓会がより大きく発展できればと思います。そのためにも行事などに積極的に参加し、多くの事を学んでいきたいと思っております。

最後になりますが、北海道医療大学薬学部の同窓会がますます繁栄することを願ひまして、新入会員の挨拶を終わらせていただきます。

(原稿受領; 2012年1月)



3. 懇親会 19時00分～21時00分

初代会長としての初仕事、新井会長挨拶のあと同窓会本部より副会長で4期生の多田 正人さんをご挨拶、続けて澤田副会長の乾杯で祝宴が始まりました。ある意味この懇親会がこの日のメインイベントでした。参加した同窓生一人ひとりを周りが盛り上げながらそれぞれの近況報告あり、終盤では各期の同級生どうしで記念撮影をして楽しい懇親会を終了しました。今後毎年、関西支部同窓会を多数の参加者で開催できるよう役員一同努力していきたいと思ひます。



北医療薬本部役員 新理事の挨拶

大島 伸 宏 (29期)

北海道医療大学薬学部同窓会会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平成23年6月に同窓会理事に就任致しました29期卒の大島伸宏と申します。自己紹介を兼ねてご挨拶申し上げます。私は平成18年3月に本学薬学部を卒業し、2年後の平成20年4月から本学薬学部の教員として大学に勤務しております。教員として2年ぶりに母校に戻ってみますと、6年制の薬学生の若さや新たに建設された中央講義棟などに圧倒されるとともに、めまぐるしく変化していた薬学部を取り巻く環境の中でも、本学薬学部は着実に前進していたことに感動を覚えました。これからも教員かつ同窓会会員の一人として、本学薬学部と同窓会のより一層の発展と飛躍のため、微力ではありますが精進したいと思います。最後になりましたが、同窓会会員の皆様には、今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

平成23年度 事業報告

1. 第32回北医療薬総会の開催
(6月4日 KKRホテル札幌)
2. 講演会の開催
医療薬学セミナー(各支部と協力)
6月4日(土)札幌(札幌支部)
7月23日(土)青森(青森支部)
7月23日(土)旭川(旭川支部)
9月24日(土)福岡(九州・中四国支部)
10月1日(土)那覇(沖縄支部)
10月22日(土)宇都宮(栃木支部)
10月22日(土)大阪(関西支部)
(関西支部設立総会)
11月12日(土)釧路(釧路支部)
3. 理事会の開催
第1回(5月16日サテライトキャンパス)
審議内容 1) 総会提出議案について 2) 役員改選について 3) 評議員について 4) その他
第2回(6月4日KKRホテル札幌)
審議内容 1) 総会提出議案について 2) 役員改選について 3) 評議員について 4) その他
第3回(8月8日サテライトキャンパス)
審議内容 1) 活動方針について 2) 担当部会について 3) 評議員委嘱について 4) その他
4. 役員会・評議員会・各運営部会の開催
第1回会長副会長会議
(5月26日サテライトキャンパス)
審議内容 1) 総会提出議案について 2) 役員改選について 3) 評議員について 4) その他
第2回会長副会長会議
(7月4日サテライトキャンパス)
審議内容 1) 名簿発刊について 2) その他
第1回評議員会(6月4日KKRホテル札幌)
審議内容 1) 総会提出議案について 2) 役員改選について 3) 評議員について 4) その他
第1回広報委員会(6月4日KKRホテル札幌)
審議内容 1) 会報について 2) HPについて 3) その他
第2回広報委員会
(10月3日サテライトキャンパス)
審議内容 1) 会報について 2) HPについて 3) その他
5. 大学主催 他同窓会との懇談会(11月15日)
6. 同窓会主催 他学部同窓会との連絡協議会(9月15日)
7. 同窓生子女枠・医療人枠 入試の実施

8. 同窓会名簿発刊準備(調査、原稿準備等)
9. 会報の発行準備(原稿準備、編集等)
10. 卒業生への入会案内説明会・入会案内発送(3月16日)

平成24年度 事業計画(案)

主な事業計画

1. 総会の開催
第33回北医療薬総会
(7月15日 KKRホテル札幌)
2. 講演会の開催
医療薬学セミナー(各支部と協力)
7月15日(日)札幌(札幌支部)
7月28日(土)旭川(道北支部)
9月29日(土)広島(中四国支部)
ほか全支部にて開催を予定
3. 理事会の開催(必要に応じ随時開催)
第1回(5月23日サテライトキャンパス)
審議内容 1) 総会開催について 2) 支部長会議について 3) 評議員について 4) その他
4. 役員会・評議員会・各運営部会の開催
(必要に応じ随時開催)
第1回会長副会長会議
(5月18日サテライトキャンパス)
審議内容 1) 総会開催について 2) 名簿発刊について 3) その他
第1回評議員会(7月15日KKRホテル札幌)
審議内容 1) 総会提出議案について 2) その他
第1回広報委員会(未定)
審議内容 1) 会報について 2) HPについて 3) その他
5. 支部長会議の開催(7月15日KKRホテル札幌)
6. 大学主催 他同窓会との懇談会(11月)
7. 同窓会主催 他学部同窓会との連絡協議会(9月)
8. 全国薬科大学薬学部同窓会協議会(10月)(未定)
9. 日本薬剤師会学術大会 北医療薬懇親会
(10月 静岡県浜松市)(未定)
10. 同窓生子女枠・医療人枠 入試の実施
11. 会報の発行(6月)

第33回 北医療薬 総会および懇親会のご案内

(医療薬学セミナーのご案内)

第33回 北医療薬 総会および懇親会を下記のとおり開催いたします。総会は同窓会発展のために皆様からのご意見を頂戴し、活動方針について審議いただく貴重な機会です。多くの皆様にご参加いただき、ご意見を賜りながら、親睦を深めていただきたく思います。是非、お誘い合わせのうえ奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

総会終了後、医療薬学セミナー（札幌支部主催）を開催いたします。

記

日 時：平成24年7月15日（日）

- ・北医療薬 総 会：17時00分
- ・札幌支部 総 会：17時45分
- ・医療薬学セミナー：18時00分

「薬物トランスポーター活性測定法の開発」

北海道医療大学 副学長 黒 澤 隆 夫 先生

- ・懇 親 会：19時30分（セミナー終了後）

*セミナーは札幌支部主催ですが、どなたでもご参加いただけます。

会 場：ホテルKKR札幌

札幌市中央区北4条西5丁目 TEL (011) 231-6711

懇親会費：3,000円（当日申し受けます）

*出欠席のお返事は、同封の返信用ハガキまたは、同窓会ホームページで **6月30日** までにお知らせください。ハガキでの返信の場合は委任状への署名も合わせてお願いいたします。

同窓会ホームページ：<http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/~phalumni/>

関西支部会 平成24年度総会開催のお知らせ

＝ 平成24年度 関西支部会（講演会・総会・懇親会）＝

日 時：平成24年10月27日(土) 16：30～20：00

場 所：リーガロイヤル大阪

詳しい内容につきましては、oohara1018@kiu.biglobe.ne.jp 大原（4期）までお願い致します。



薬学部6年制への移行に伴い、本学薬学部では講義および実習内容、教員など様々なことが変わりました。また、地球温暖化の影響か薬学部がある当別町近郊もここ数年極地的豪雪に見舞われることが多く、積雪量も以前と比べ大きく変わっています。2012年3月には薬学部が6年制になって最初の国家試験が開催されました。日々、変わりゆく様々な事柄の中で、本学の薬剤師国家試験の合格率の高さは今後も決して、変わらないと信じています。 (S. K.)